



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	鳥取短期大学 体育館・大講義棟	階数	地上2F
建設地	鳥取県倉吉市福庭854	構造	RC造
用途地域	無指定	平均居住人員	200人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	800時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年3月8日
敷地面積	63,442 m ²	作成者	片山和夫
建築面積	1,543 m ²	確認日	
延床面積	2,810 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★ B+: ★★ C: ★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合 緑に囲まれた敷地面積63,442m²のほぼ中央部に建設するにあたって、「恵まれた生物環境の保全」、「施設機能の充実」、「人にやさしい建材の使用」、「省エネルギー」に配慮している。</p>		
<p>Q1 室内環境 教室(1階)機能の充実を図るため、上階を体育館としているので、界床遮音性を高めて床衝撃音を防ぐことに努めている。建築材料は化学汚染物質の建築基準法規制対象外となる材料を全面的に利用している。</p>	<p>Q2 サービス性能 建築物移動等円滑化基準(バリアフリー法)を、福祉のまちづくり条例により適合させている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の恵まれた生物環境を、優先的に保全することに努めている。</p>
<p>LR1 エネルギー 高効率照明器具(LED、Hf蛍光灯、初期照度補正、HID)、人感センサー、トランシーバー変圧器、細かな照明ゾーニング計画等により省エネルギーに配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 建築資材はリサイクル材料(グリーン購入法)を使用することで、資源消費の低減に配慮している。</p>	<p>LR3 敷地外環境 建物の後退距離及び隣接間隔を確保することで風通しをよくし、中・高木により日陰を形成することで、敷地外への熱的影響を低減する配慮をしている。</p>

重点項目	得点	取組み度
県産材利用の推進	点 / 15点	
鳥取県認定グリーン商品利用の推進	点 / 25点	
自然エネルギー変換利用の推進	点 / 25点	
敷地内緑化の推進	15点 / 25点	
合計	15点 / 90点	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される